



Global Studies Initiative
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

第11回

「日本人と琉球

——二つの地図から考える——」

渡辺 美季 総合文化研究科 超域文化科学専攻 准教授

司会 田辺明生(総合文化研究科 超域文化科学専攻)

討論者 伊達聖伸(総合文化研究科 地域文化研究専攻)

國分功一郎(総合文化研究科 超域文化科学専攻)

使用言語 日本語

日時・会場

2021年3月16日(火) 14:55 - 16:40

Zoom Webinar (下記URLからご登録ください。)

<http://bit.ly/3q24ruY>

要旨

1471年に朝鮮で刊行された「琉球国之図」という地図がある。当時、琉球・朝鮮との交易に従事していた道安という博多商人が、1453年に朝鮮政府に献上した地図(以下、「原図」と記す)をもとに作成されたと推定でき、今のところ琉球を詳細に描いた最古の地図である。一方、1696年、竹森道悦という福岡の藩士が「琉球国図」という地図を何らかの地図を模写する形で作成し、太宰府天満宮に奉納している。

最古の「琉球国之図」と、それとよく似つつも、より詳細な225年後の「琉球国図」。一体なぜ竹森道悦は、17世紀末に約200年も前の状況を描く琉球の地図に着目し、模写したり神社に奉納したりしたのだろうか。そもそも道悦ら江戸時代の日本人にとって琉球とはどのような存在であったのか。誰がどのように行くことができ、また行き得なかったのか。本報告では、二つの地図の内容や地図を巡る行為を通じて、これらの問題を具体的に論じていきたい。